



# CHANG子ども地球大学（埼玉県川口市）

## 「ラオスの子供と考えるSDGs」

児童館で定期開催することになった外国とSDGsのお話し会。今後は「CHANG子ども地球大学」という活動名にし、更にそれぞれの児童館によってオリジナルの名前を付けて行うことになりました。

9月26日（土）

川口市立芝児童センター

10月2日（土）

川口市立戸塚児童センター

芝の児童館は「芝っこ子ども大学」、戸塚は「あすばる子ども大学」という名前になりました。今回は同じテーマで進めます。この日は「ラオスの子どもと考えるSDGsパート2」。前回の復習に続き、ラオスのお楽しみを紹介。まだラオスはビルが少ないため夜は真っ暗、そこにある遊園地はとっても幻想的な世界。子ども達は「きれい！行きたい！」と目を輝かせてました。ソングランと言う水かけ祭りでは

大人から子供まで水をかけあって大騒ぎ。「大人もやってる！楽しそう♪」と、うらやましそう。



大人も子供も大騒ぎする水かけ祭り

クイズはラオスのトイレ。「便器の脇の桶は何に使うと思う？」子供「トイレを洗う？」「手？」「・・・出したものを・・・流す？」私「そう。この桶に水をためて自分でトイレを流します」子供「えー！」と驚き。紙を流さずにゴミ箱に捨てるトイレもあります

から、日本のようにボタンを押せば流れるのは当たり前ではないのです。



自分で流すトイレに驚き

### SDGsを考える。

1. 貧困をなくそう
2. 飢餓をゼロに

そして今日考えるSDGsは「貧困と飢餓」。

私「ラオスでは4人に1人が一日に135円しか使えません。子供のお小遣いならいいけど、大人はこれでは足りません。大人はどんなことに使うと思う？」

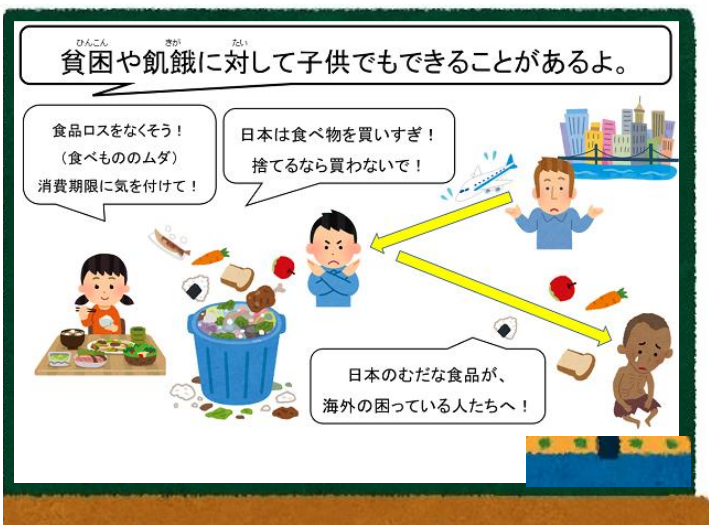
子供「ご飯、電気代・・・」私「家賃、病院、水道、学費・・・」大人が家族のためにどんなことにお金を使うか知ること大切ですね。ラオスでは仕事をするために小学校を辞める子や、中学校に進学で

きない子もいます。栄養が足りずに5才まで生きることができない子もたくさんいること。水道がない小学校に、浄水器と水道を取り付けたお話しもしました。子ども達は日本との違いに真剣な顔で聞いていました。



念願の水道が完成して殺到する小学生

次に飢餓の問題を考えます。世界中で8億人(9人に1人)が食料不足で苦しんでいます。その飢餓をなくすためには320万トンの食糧が必要。そして、日本の食品ロスが年間646万トン。飢餓をなくすために必要な食品量の倍の食品を日本は捨てているんです。これは日本人全員が毎日おちゃわん一杯分を捨てているくらいの量と説明しました。



### 「貧困と飢餓」に

#### 小学生でもできること

そして「貧困や飢餓に対して小学生でもできること」として次の3つを勉強しました。

①困っている人に勉強や運動を教えてあげよう。

何か得意なことがあれば、お金を稼ぐことができるでしょう。

②食品ロスをなくそう!消費期限に気を付けて!

日本のむだな輸入が減れば、その分が足りない国に届くかもしれません。

③農業に興味を持とう!応援しよう!

後継者不足の農業がもっと憧れの職業になるといいですね。家庭菜園や体験農業に行つて、食べ物を作る過程を学ぶのもとても良い経験です。



この子たちも一日一食しか食べられないこともありました

ここで、まとめのクイズです。

私「消費期限が明日のお菓子と、年末までのお菓子があります。今日のおやつはどっちを食べる?」

子供「明日の!」

私「形の悪い野菜が採れました。売れないけどどうする?捨てる?」

子供「ダメ、食べる!」

もっと大きくなったら、貯金、ボランティア、子供食堂への寄付などできることはたくさんあります。

最後に感想を言ってもらいました。一年生「いつもお魚と大根を残しちゃってるけど食べれるようになった!」

三年生「誰かが困つたら教えてあげたい!」

五年生「SDGsが理解できた。小学生でもできることがあることがわかった」と、どの子も理解が早くとても頼もしいです。



みんな元気よく発言してくれました

今回は十二月「東南アジアのクリスマスとお正月とSDGs」をお話しする予定です。お楽しみに!